福井市自然史博物館研究報告 第47号：71-72 (2000)

福井県敦賀市で海岸漂着物と共に拾得されたタガメ

長田　勝*・福岡　修**

タガメ *Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy) は池沼，小川，水田などに生息し，ドジョウ，オタマジャクシ，カエルなど各種の水生動物を捕食する大型の水生半翅類である．北海道を除く日本各地，朝鮮半島，中国中南部に広く分布する（市川，1990）が，わが国では全国的な減少傾向がみられる．こうした減少傾向は福井県においても同様で，最近では1982年5月の大野市勝原における採集記録のほかに確かな記録はない（下野谷，1998）．

筆者のひとり福岡は，2000年9月25日に敦賀半島の北西端にある福井県敦賀市白木の砂浜（図１）で海岸漂着物を収集していた際，大量のルリガイ，ギンカクラゲ，流木類に混じっていたタガメの死体を１頭拾得した．波うちぎわから約5ｍの地点である．

本個体は雌で，体長は64㎜である（呼吸管を除く．図２）．虫体は新鮮で，破損や腐敗は認められなかった．また，ほぼ同じ地点でスズメガ科のシモフリスズメの蛹も拾得したが（図３），頭部に傷がありすでに死亡していた．この蛹も拾得時は新鮮で，腹部の体節は柔らかくて動かせる状態であった．

淡水性のタガメが海岸漂着物とともに拾得された理由として次のことが考えられるであろう．なお，久保田（2000）が和歌山県白浜町で観察した海面を滑走する淡水性アメンボについての考察は非常に興味深い．

①死体が川を経由して海に運ばれ，漂着した．

②生体が川を経由して海に流下し，死後，漂着した．

③飛翔中の個体が何らかの理由で海面に落下し，死後，漂着した．

今回，敦賀市白木で拾得されたタガメは，上記のいずれかの理由で海岸に漂着したと思われるが，虫体に破損，腐敗が認められないことから，死後，発見されるまでそれほど時間が経過していないものと考えられる．恐らく白木地区もしくは近隣の地域にタガメが生息しているのであろう．

引　用　文　献

市川憲平．1990．タガメの生態．昆虫と自然，25(8)：8-13.

久保田信．2000．海面を滑走する淡水性アメンボ（半翅目，アメンボ科）．くろしお，(19)：31-32.

下野谷豊一．1998．福井県からのタガメとサシガメ科２種の採集記録．福井市自然史博物館研究報告，(45)：65.

*福井市自然史博物館（〒918-8006　福井市足羽上町147）
**日本貝類学会会員　（〒918-0035　鯖江市新町7－1－6）

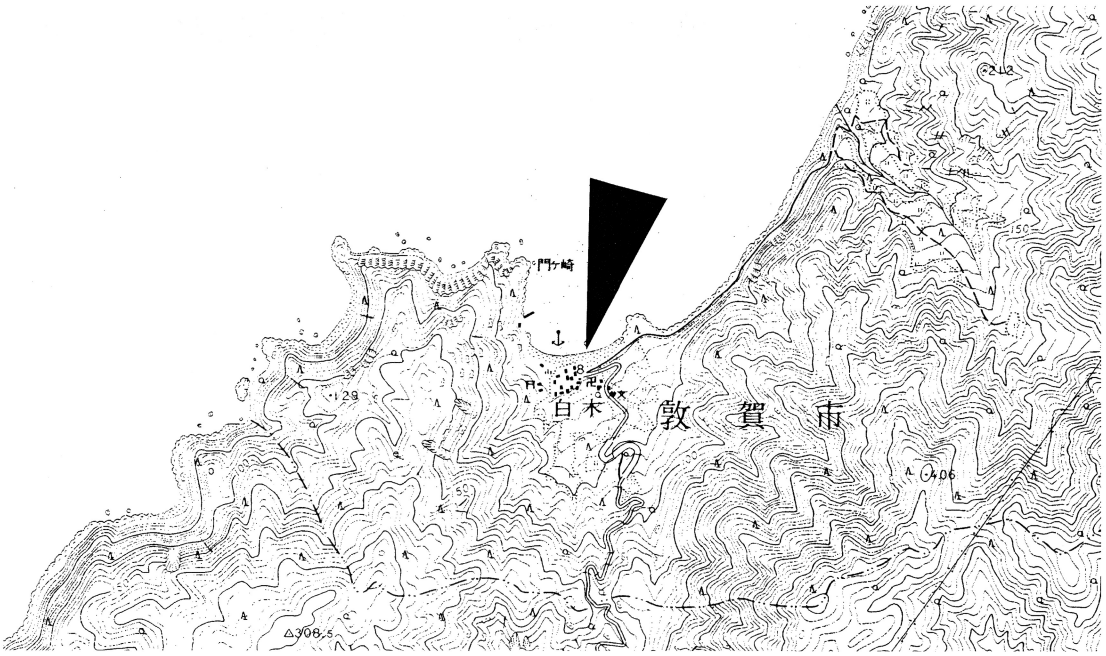

図１　タガメの拾得地点
（国土地理院発行1／25,000地形図「竹波」を使用.）

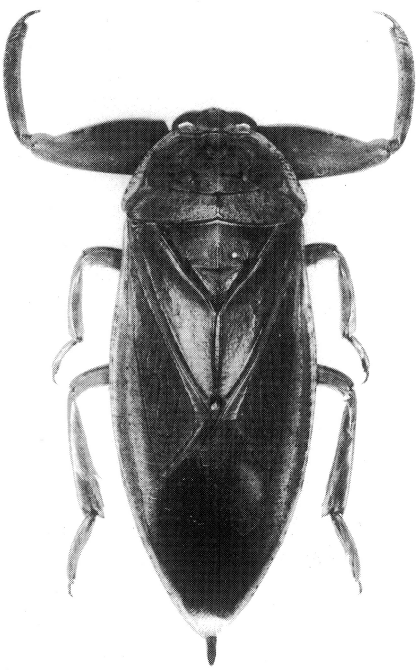

図２　漂着したタガメ

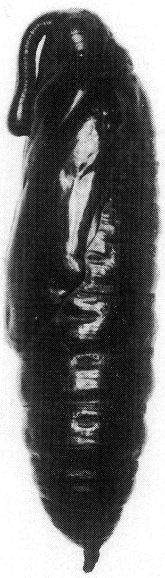

図３　シモフリスズメの蛹